

ロジスティクス最前線/関東版 特集

「誰でもできる」で離職減



伊藤 淳氏

いとう・じゅん 1966年生まれ、福岡県出身。ダイエー、アオキインターナショナル、エンフィールドを経て、2015年6月ケイソー設立、社長。



波田 雅文氏

はだ・まさみ 1967年生まれ、和歌山県出身。2008年5月ビー・カーゴワークス設立、社長。



大島 弘明氏

おしま・ひろあき 1964年生まれ、東京都出身。88年4月日通総合研究所入社、2018年8月から現職。

事業者7割「人手不足」 大島

大島 物流の現場では、ドライバー不足が大きな問題として顕在化しています。一方で、EC(電子商取引)市場の増加に伴い、宅配便のボリュームが増え、再配達の問題も出ています。事業者からは、BtoC(企業-消費者)の宅配では、5、6割が不在といった声も聞きます。生活の中の便利さを担うラストワンマイル輸送について、今後の課題が生じるのか、そして解決するにはどうすれば良いのか、議論したいと思います。

直荷主にこだわり営業 波田

大島 志村社長、波田社長のお二人はそれぞれいかがですか。波田 志村、当協会は4月に発足したばかりです。私が経営するデリバリーサービス(東京都府中市)は、東京では数少ない積合せを行う会社で、設立の際には1都3県で同様に積合せを行う会社で、設立の声を掛けました。手については、当社は足りていますが、組合員の半数が「まだ足りない」としており、会合では毎回人手不足が議題に上がっています。大島 志村社長、波田社長のお二人はそれぞれいかがですか。波田 志村、当協会は4月に発足したばかりです。私が経営するデリバリーサービス(東京都府中市)は、東京では数少ない積合せを行う会社で、設立の際には1都3県で同様に積合せを行う会社で、設立の声を掛けました。手については、当社は足りていますが、組合員の半数が「まだ足りない」としており、会合では毎回人手不足が議題に上がっています。

ラストワンマイル輸送の展望

EC(電子商取引)市場の拡大に伴い、ネット通販での荷物が増え、大手宅配事業者を中心に運賃の値上げと総量規制が始まっています。ドライバー不足に加え、労働時間短縮をはじめとする働き方改革の流れの中、物流事業者は更なる対応を迫られている。ネット通販を含め、宅配業務の最終段階を担う軽貨物運送事業を手掛ける経営者に集まってもらい、現状の打開策や、ラストワンマイル輸送の今後の展開について話し合ってもらった。

大島 話を聞くと、既に各社で工夫して雇用されているように思えます。志村 理事長の会社で安定雇用されている理由は何でしょうか。

志村 はっきり言えば、イメージづくりです。当社はフットサルチームのメンバーをしていて、その交流を通じて紹介の人が来たり、事務職では、1人の募集で20、30人集まったりします。また、個人事業主は集まりにくくなったので、今は社員への切り替えを進めています。昨年は46人、今年は16人採用しました。社員に対する経費が掛かりますが、これを補える仕事を取ろうとしています。人手不足は、増車した時と欠員が出た時に発生します。このため会社として取り組んでいくのが、誰でもできる仕事を引き受けること。管理職がまず乗車してみて、誰でもできるかどうかを判断する。厳しい現場を取らない営業スタイルにすることで、新人でもすぐ仕事ができるようになります。離職率は非常に低くなります。

都民の暮らしを運ぶ、緑ナンバートラック。

東ト協 100%

あ 86.3%

物流がライフラインとしてこれまでも、これからも安全・安心な輸送サービスを。新鮮な野菜や果物、肉、魚などの生鮮食品から日用品まで、1年間に国内で運ばれる貨物の量は約48億トンにもなります。そのうち全国から東京に運ばれてくる貨物は約2.4億トン。貨物を運ぶ輸送機関の90%以上はトラックです。緑ナンバーのトラックは、輸送専門の営業用トラックのことで、都内における貨物輸送の半分以上は営業用トラックが担っているのです。東京都トラック協会は、都民の暮らしに深くかかわる営業用トラックのために、安全・安心な輸送サービスをしっかりとサポートしていくために、これからも交通事故防止・環境保全を目指しさまざまな活動に取り組んでまいります。

「いま」を支える。「みらい」をつくる。

一般社団法人 東京都トラック協会

〒160-0004 東京都新宿区四谷3丁目1番8号

TEL.03-3359-6251(代) URL.http://www.totokyo.or.jp

